

公開演武

テーマ「澁川一流柔術」

講師：森本邦生（貫汪館）

日時：平成 26 年 9 月 10 日（水）15：00—15：30

場所：福山市立大学港町キャンパス 研究棟 1 階 大講義室

I 由来

澁川一流柔術の流祖 首藤蔵之進満時は、宇和島藩浪人と伝えられる叔父の宮崎儀右衛門満義とともに広島藩安芸郡坂村に居住した。蔵之進は宮崎儀右衛門を師として澁川流および難波一甫流を習得し、さらに武者修行の途上、浅山一伝流をも習得して三流をもとに「澁川一流柔術」を創始した。

天保十年ころ首藤蔵之進は松山藩に仕えることになったが、この後、松山では小玉平六と名乗り、松山においても澁川一流柔術の教授を行った。明治維新以降は親族のいる広島県安芸郡坂村にたびたび帰り、広島の門弟にも澁川一流柔術を伝え残し、明治三十年、八十九歳で松山において没している。

II 特徴

澁川一流柔術の形は徒手や懐剣、三尺棒、刀等の仕掛けに徒手で応じる術と棒術（互棒・小棒・三尺棒・半棒・六尺棒）、十手術、分童術、鎖鎌術、居合術などの得物を用いる術から成り立つ。形は約四百あり、その特徴はすべての形に飾り気がなく、素朴で単純な動きで相手を制するところにある。形は受の仕掛けの方法によってグループ分けされており、始めに稽古する履形の三十五本の形が全ての形の基本となっている。

形稽古のほかに鍛錬法として棒抜けや枕引きなども伝えている。

